

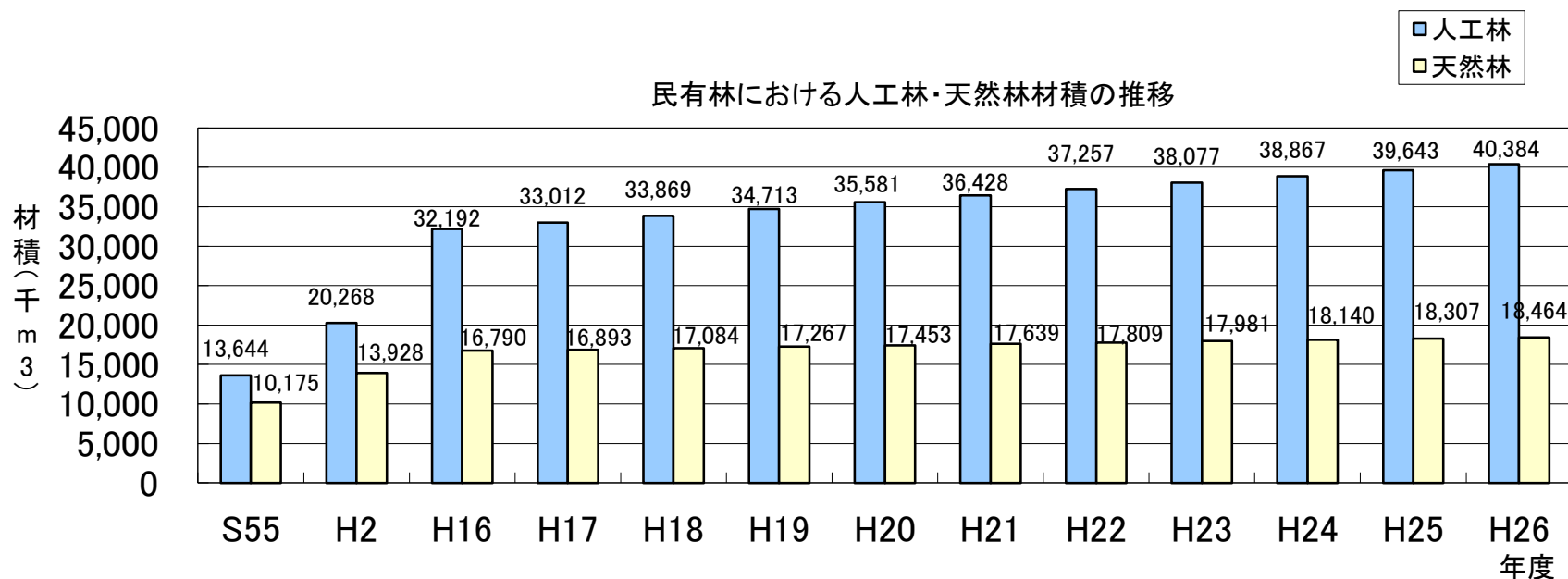
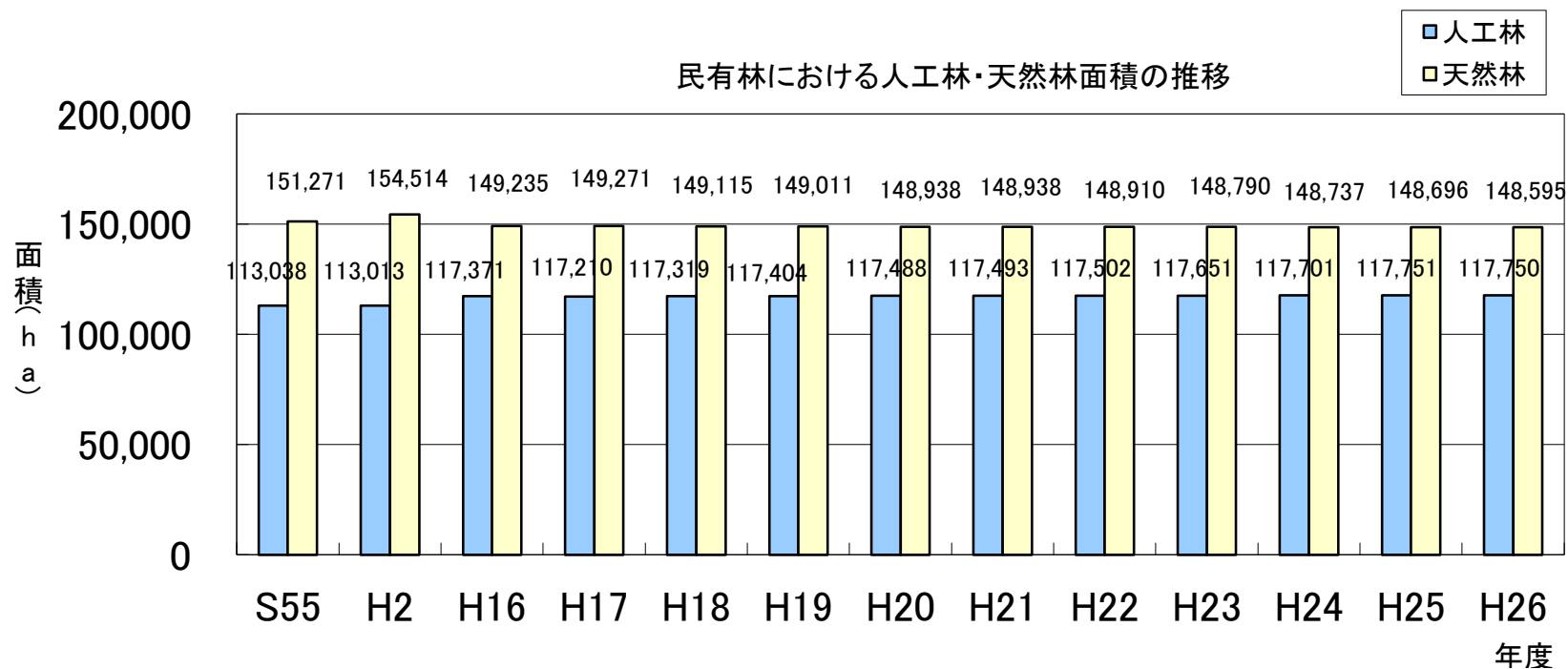
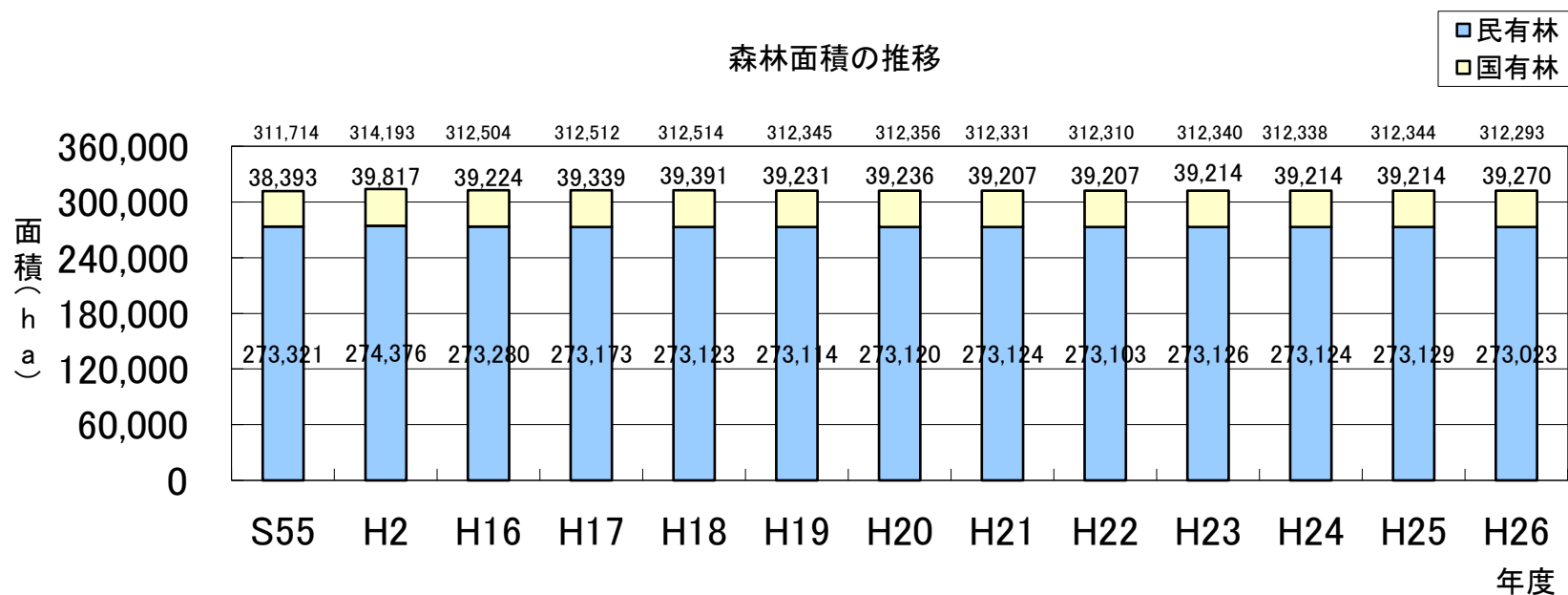
1 森林資源

○本県の森林面積は、平成26年度末現在312,293haとなっている。

○森林面積の推移は、昭和55年度(1980年)から平成2年度(1990年)にかけては約2,500ha増加しているが、平成2年度から平成26年度にかけては約1,900ha減少している。

○民有林における森林面積は、平成26年度末現在273,023haであり、このうち人工林面積については、昭和55年度からの34年間で約4,700ha増加している。

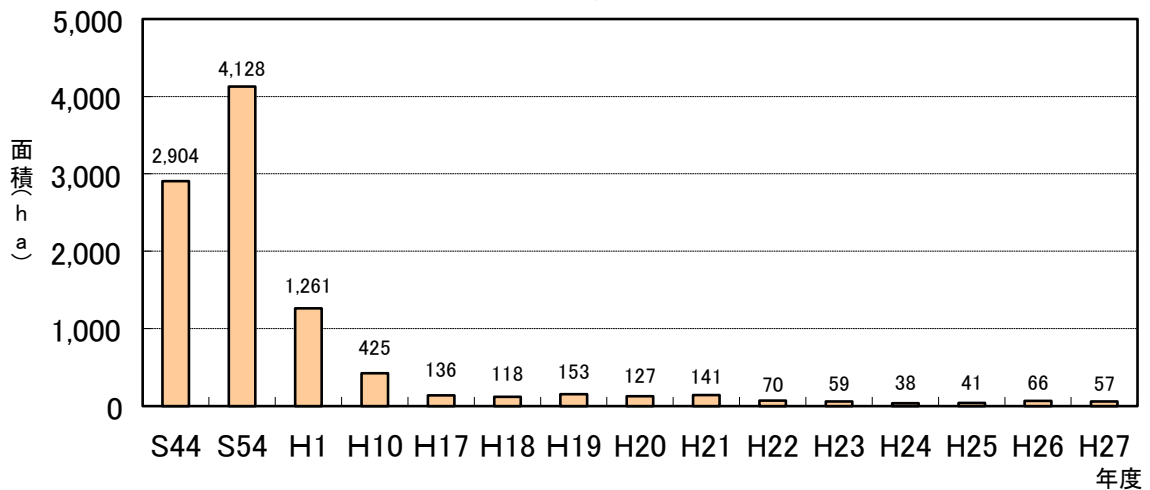
○民有林における森林材積は、平成26年度末現在5,885万m³であり、昭和55年度(2,382万m³)と比較すると3,503万m³(約2.5倍)増加している。特に、人工林の材積が34年間で2,674万m³(約3.0倍)増加している。



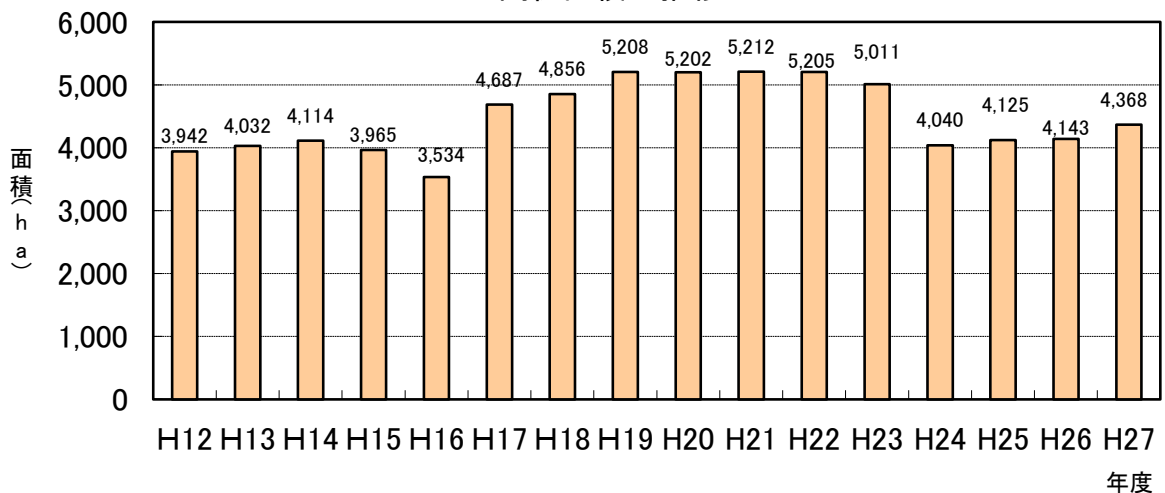
2 森林整備

- 平成27年度は57haの造林を実施している。
- 造林面積は減少傾向にある。(平成27年度実績はS54年度実績の1.4%)
- 平成27年度の間伐面積は4,368ha実施している。
- 平成20年度より間伐の重点化を図るため、山ぎわを中心としたエリアで積極的に間伐および間伐材の搬出に取り組んでいる。

造林面積の推移

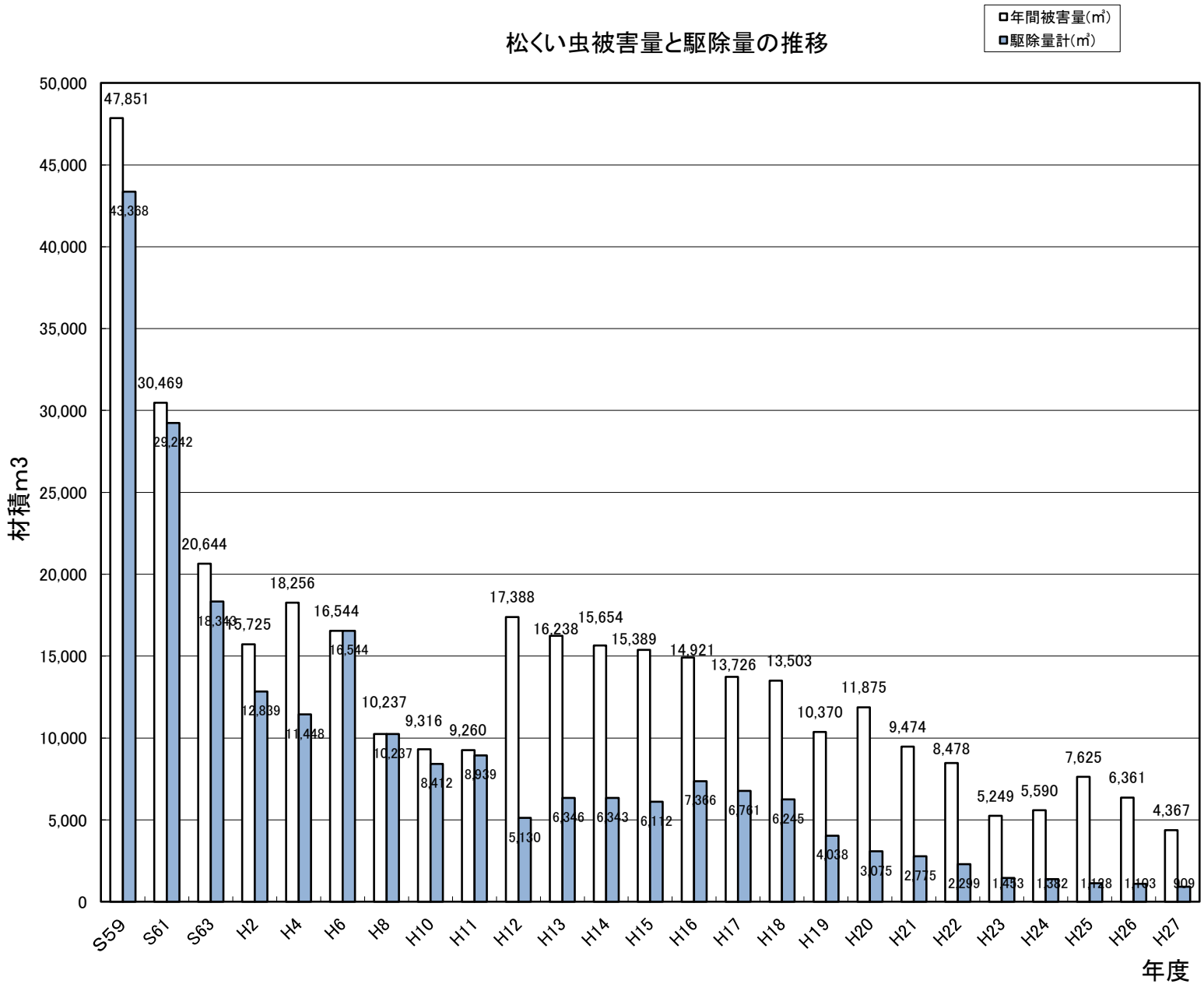


間伐面積の推移



3 松くい虫被害状況

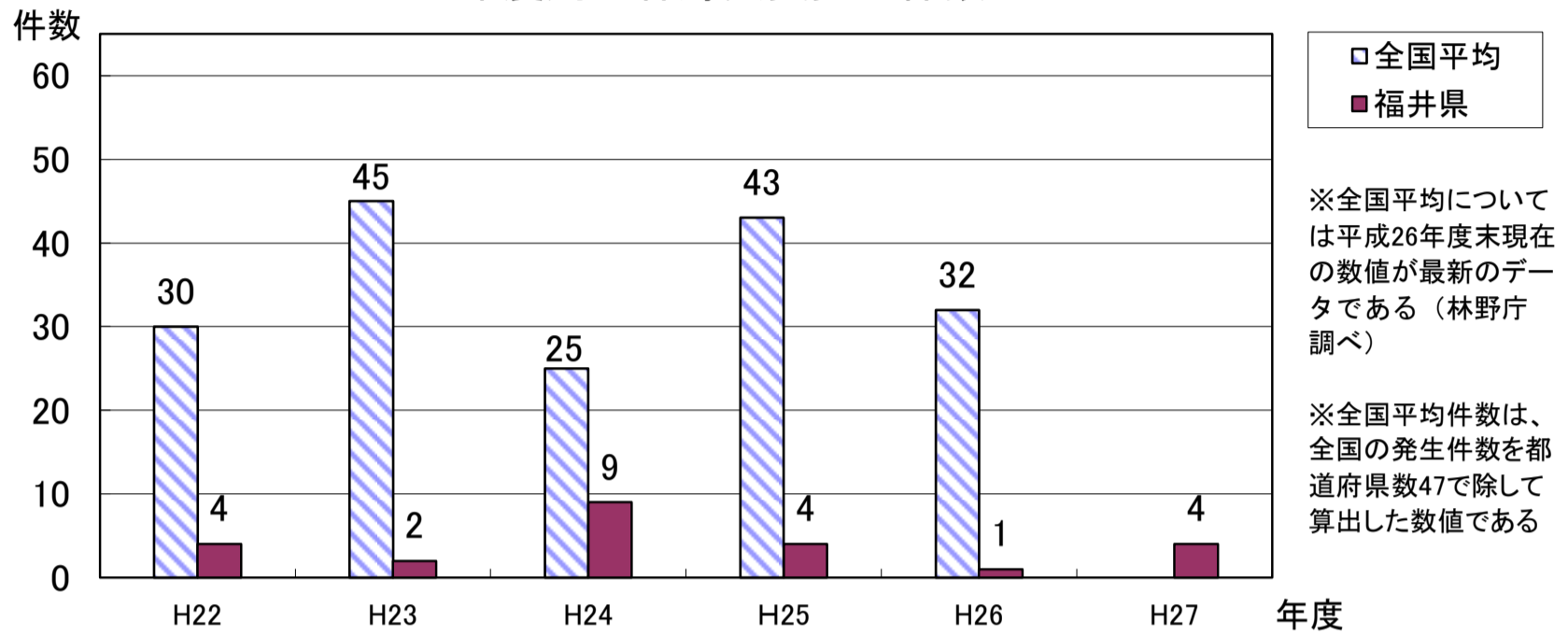
- 平成27年度の被害量は4,367m³で、前年度(6,361m³)と比較すると約31%の減少となっている。
- 松くい虫被害は昭和59年度の47,851m³をピークに、平成11年度は9,260m³で、ピーク時の約2割まで減少し、沈静化の傾向であったが、平成12年度には夏期の高温少雨の影響もあり、一転して被害が増加した。
- 平成13年度以降は暫減少傾向で推移している。



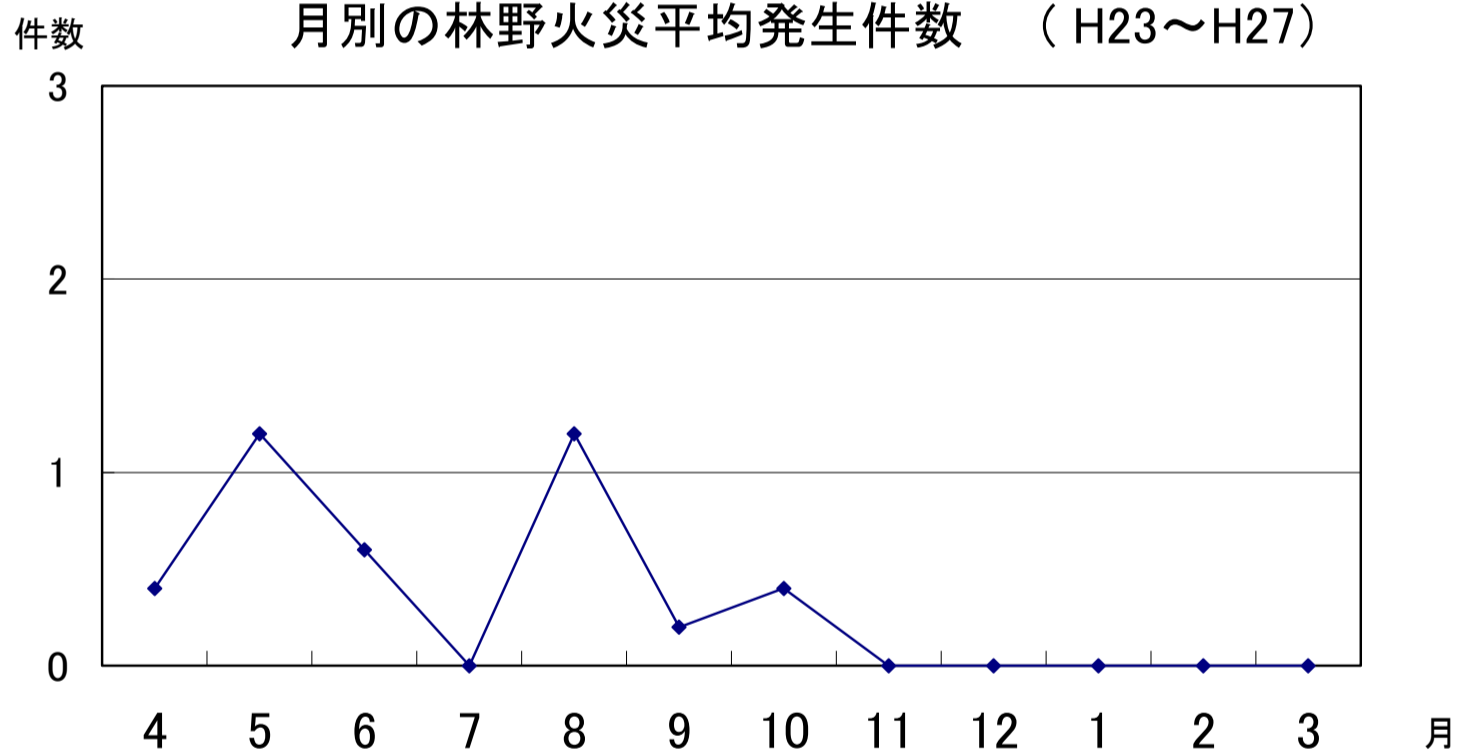
4 林野火災

- 平成27年度の林野火災発生件数は4件で、焼失面積は0.30haであった。
- 平成22年度から26年度における本県の発生件数は、全国都道府県の年間平均発生件数より低くなっている。(全国都道府県のH22～H26年間平均発生件数 35件/年、本県の年間平均発生件数 4件/年)
- 月別発生件数は、4～6月および8月が多くなっている。

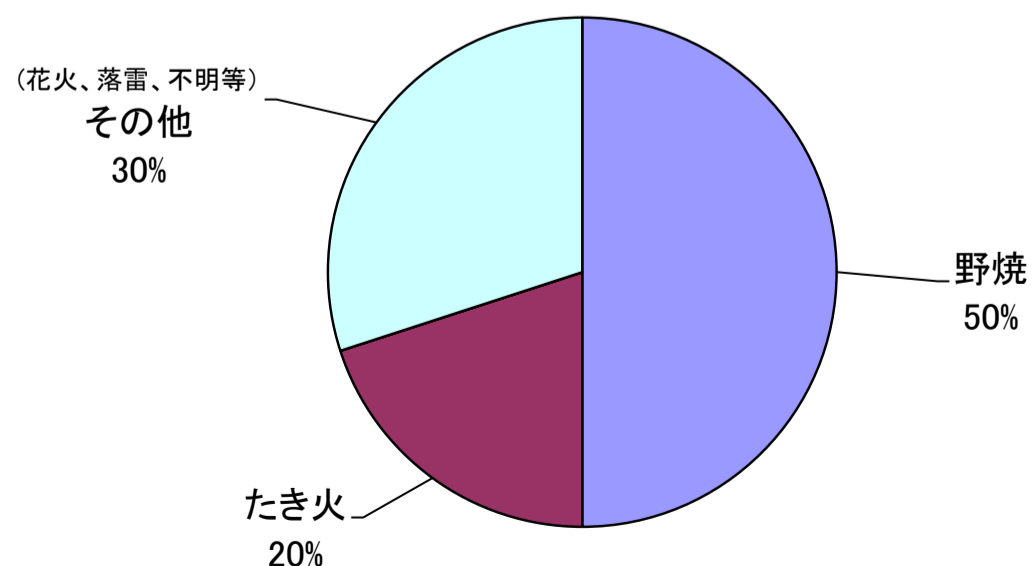
年度別の林野火災発生件数



月別の林野火災平均発生件数 (H23～H27)



出火原因別発生割合(H23～H27)

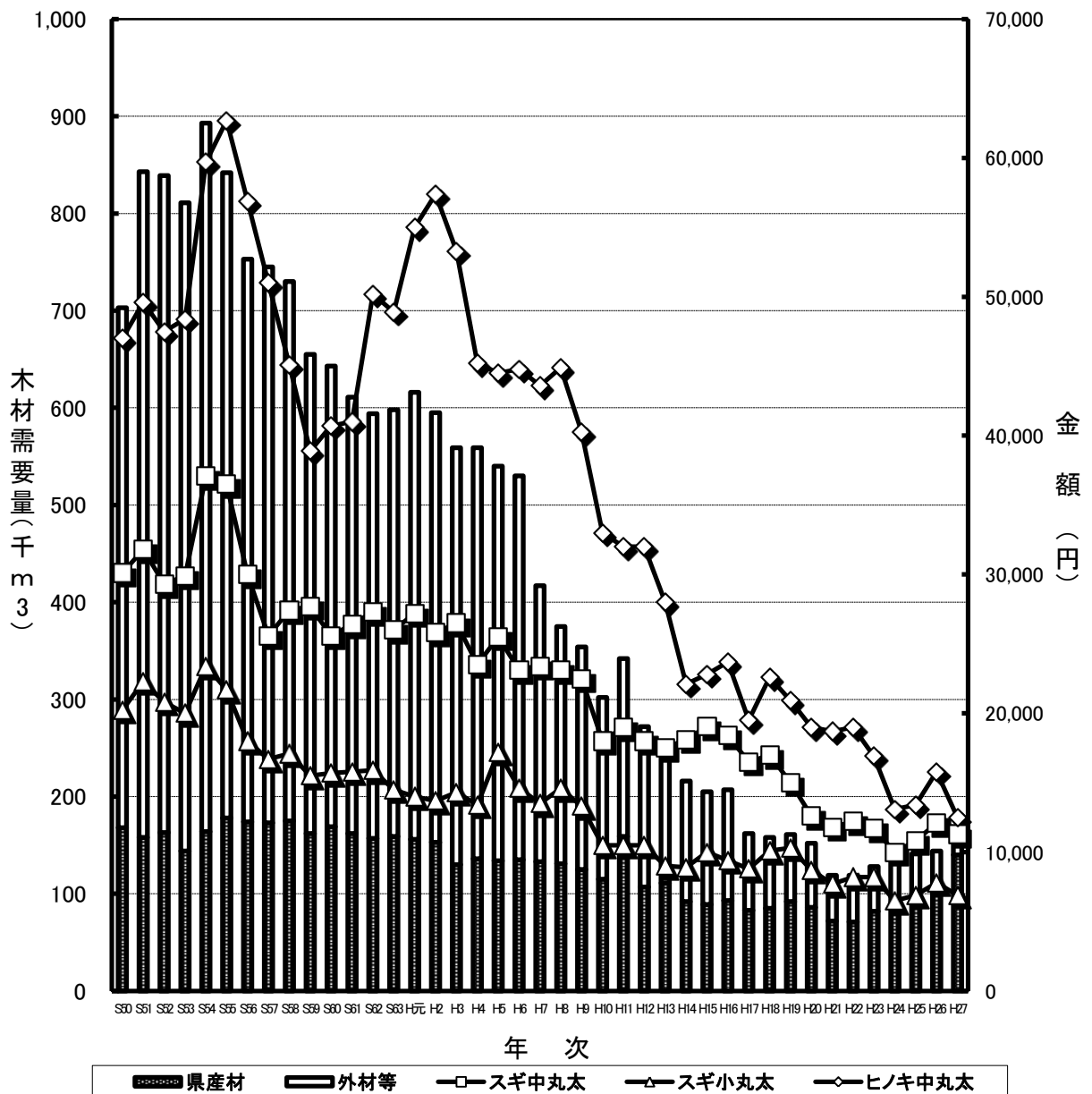


5 木材需給状況

○木材（原木）の総需要は、外材が減少傾向、県産材は増減を繰り返しながら増加傾向となっている。

○木材価格は昭和54年をピークに減少傾向にあるが、スギ中丸太が対前年度比7%減、小丸太が12%減、ヒノキ中丸太は21%減となり、丸太全体の価格は減少傾向となっている。

木材(原木)の需要と木材単価の推移(福井県)

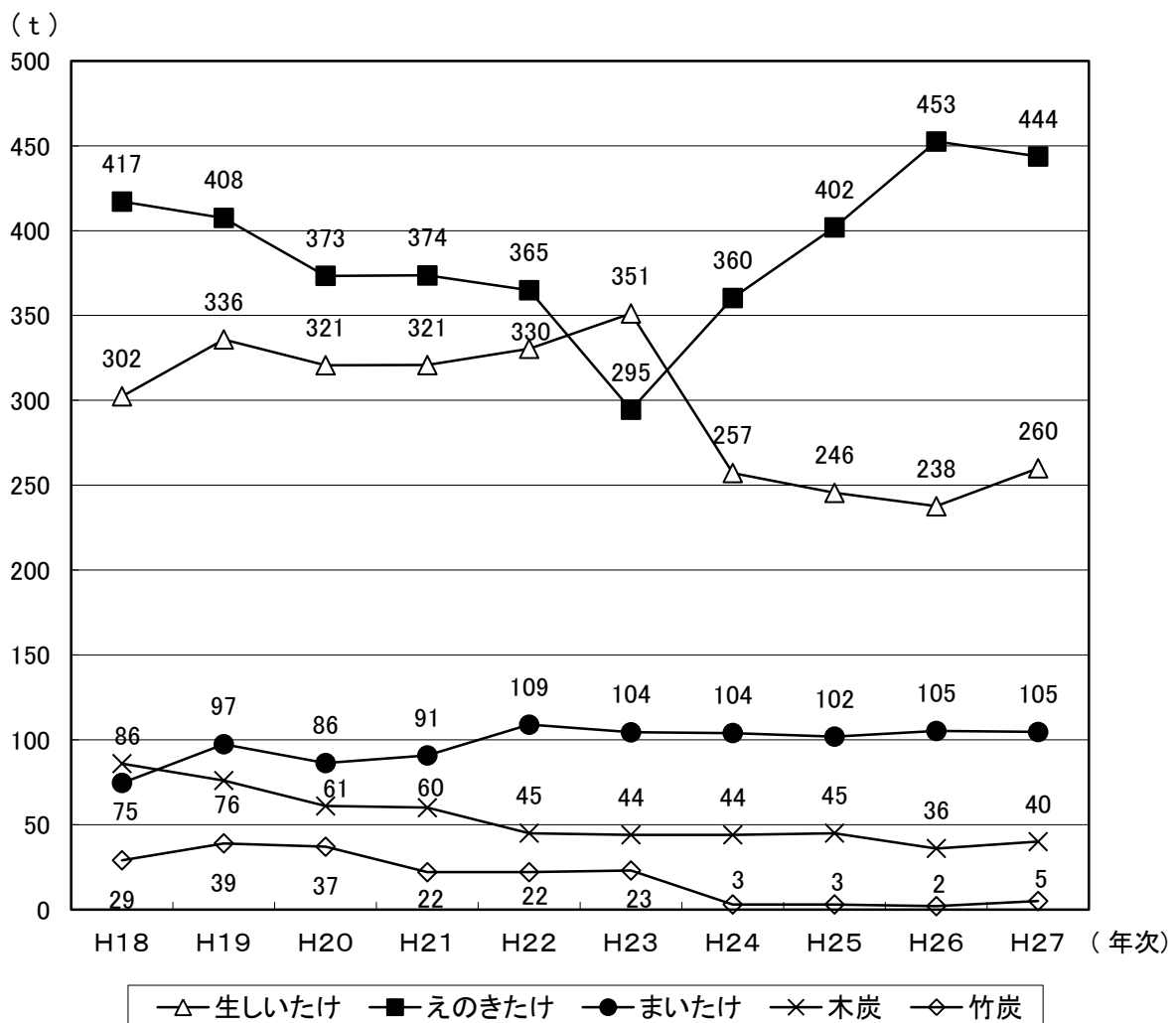


※小丸太φ=10~14cm 中丸太φ=24~28cm
 ※外材等には、他県産材を含む

6 主要特用林産物生産量の推移

きのこ類、木竹炭等特用林産物の生産量は、生産者の高齢化や担い手不足により減少傾向にある。その中で特に「生しいたけ」については、大規模生産者の生産休止等により、平成24年より生産量が減少している。

- 「生しいたけ」の生産量は、平成18年からの10年間で、302tから260tに減少(14%減)している。
- 「えのきたけ」の生産量は、平成18年から減少傾向にあったが、平成24年から増加傾向にある。
- 「まいたけ」の生産量は、近年、約100tの水準で推移している。
平成27年度に奥越地域で生産施設が整備され、平成28年4月から稼働していることから、今後、生産量の増加が見込まれる。
- 「木炭」と「竹炭」の生産量は、平成18年からの10年間で、それぞれ86tから40t(53%減)、29tから5t(83%減)に減少している。



7 高性能林業機械

○ 平成27年度までに、高性能林業機械は、県内に57台導入されている。

○ 「プロセッサ」は、11台導入されている。

○ 「ハーベスタ」は、8台導入されている。

○ 「フォワーダ」は、26台導入されている。

○ 「スイングヤーダ」は、11台導入されている。

○ 「その他の機械（グラップルバケット）」は、1台導入されている。

ハーベスタ : 伐倒のほか枝払い、玉切り、集材、チップング工程のうち一つ以上の工程を処理する自走式の多工程処理機械。

プロセッサ : 主に土場、路上等で、全木材の枝払い、測尺玉切りを行う自走式機械。

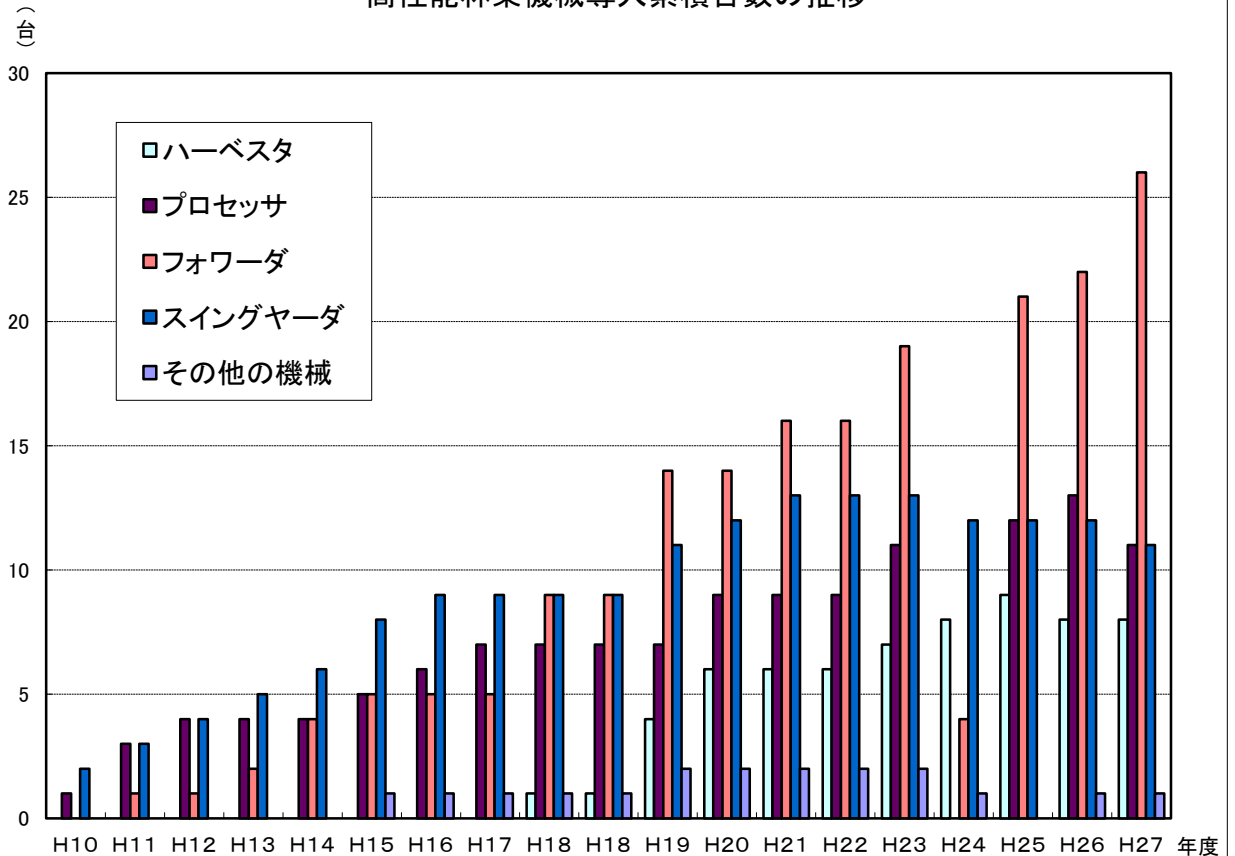
フォワーダ : 短幹材を後部の荷台に積載して林道端の土場又は集積場まで集材する車両系機械。

スイングヤーダ : 主索を用いない簡易索張り方式に対応し、かつ作業中に旋回可能なブームを装着する集材機。

建設用ベースマシンに集材用ウインチを搭載し、ブーム又はアームをタワーとして使用する。

グラップルバケット : 掘削作業の他、表土の切取・転圧、材を掴んでの移動・集積など複数の作業を処理できるアタッチメント。

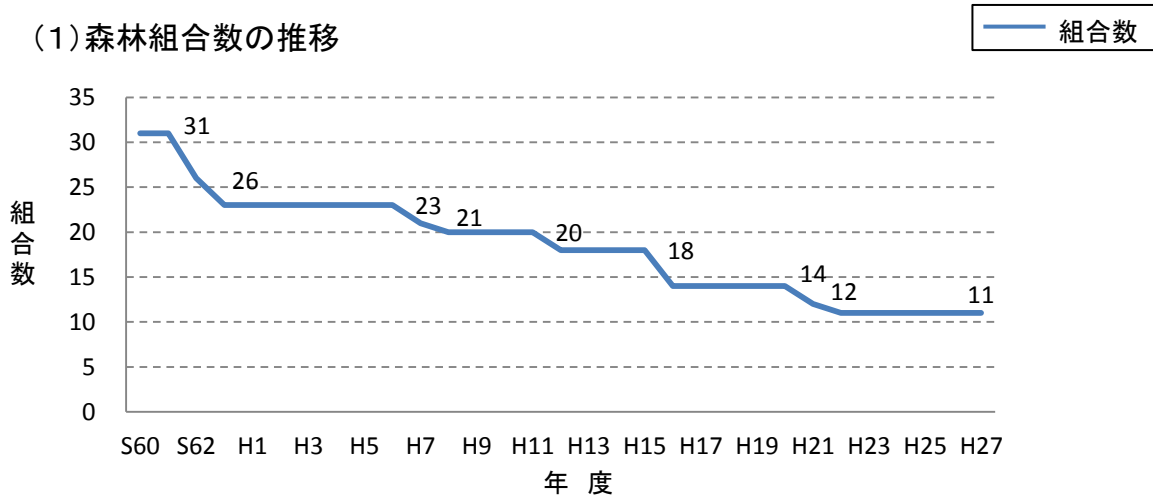
高性能林業機械導入累積台数の推移



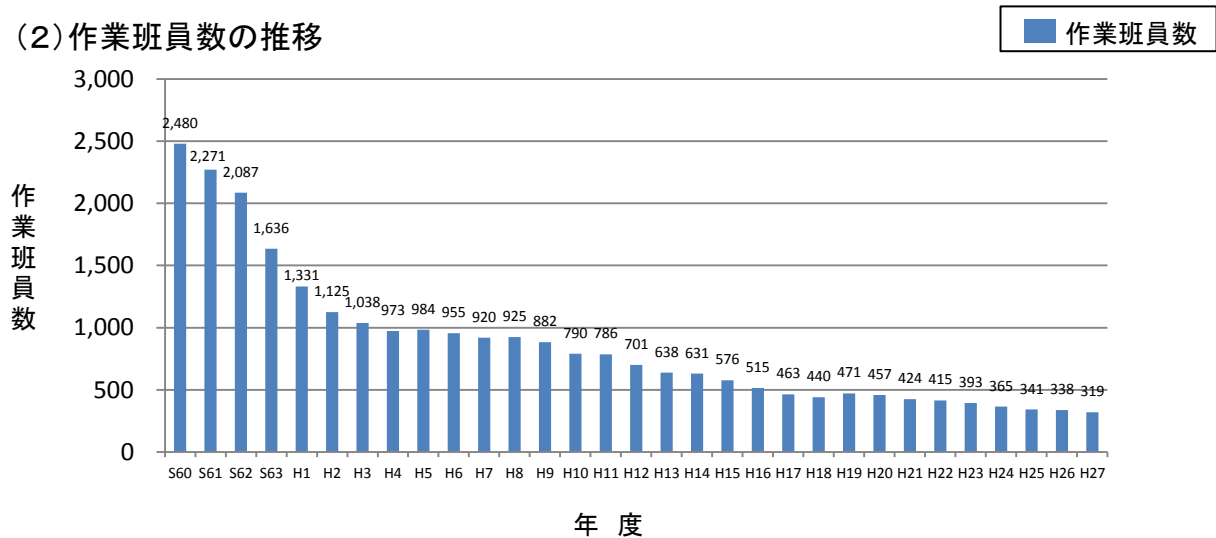
8 森林組合の状況

- 近年の広域合併は、昭和59年度、平成9年度に策定した合併基本構想に基づき、合併を推進し、平成22年度に11組合となり現在に至っている。
- 作業班員数は、昭和60年度をピークに年々減少し、平成27年度における対平成17年度比は約69%である。
- 平成27年度における作業班員の年齢構成は、「緑の雇用」研修事業の効果や社会的背景等により、平成17年度と比較すると40～59歳の中間層の割合が増加（46%から51%）し、60歳以上は減少（32%から29%）した。

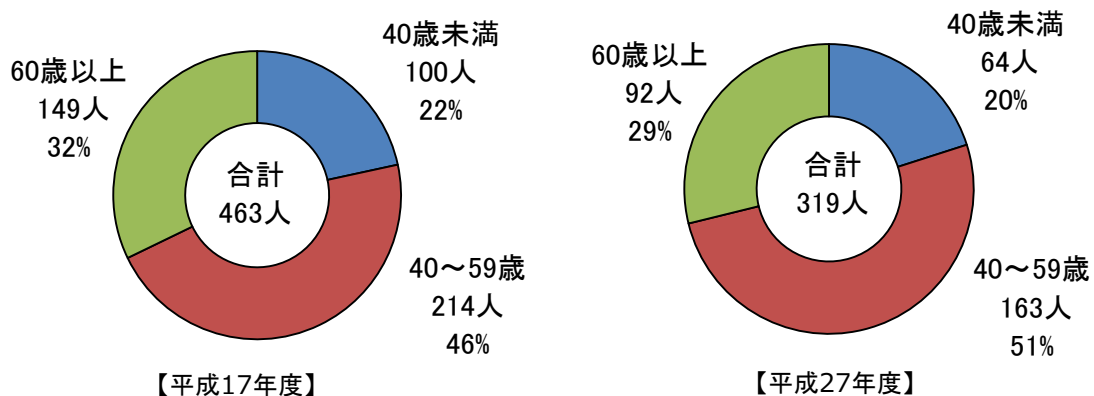
(1) 森林組合数の推移



(2) 作業班員数の推移



(3) 作業班員の年齢構成の変化

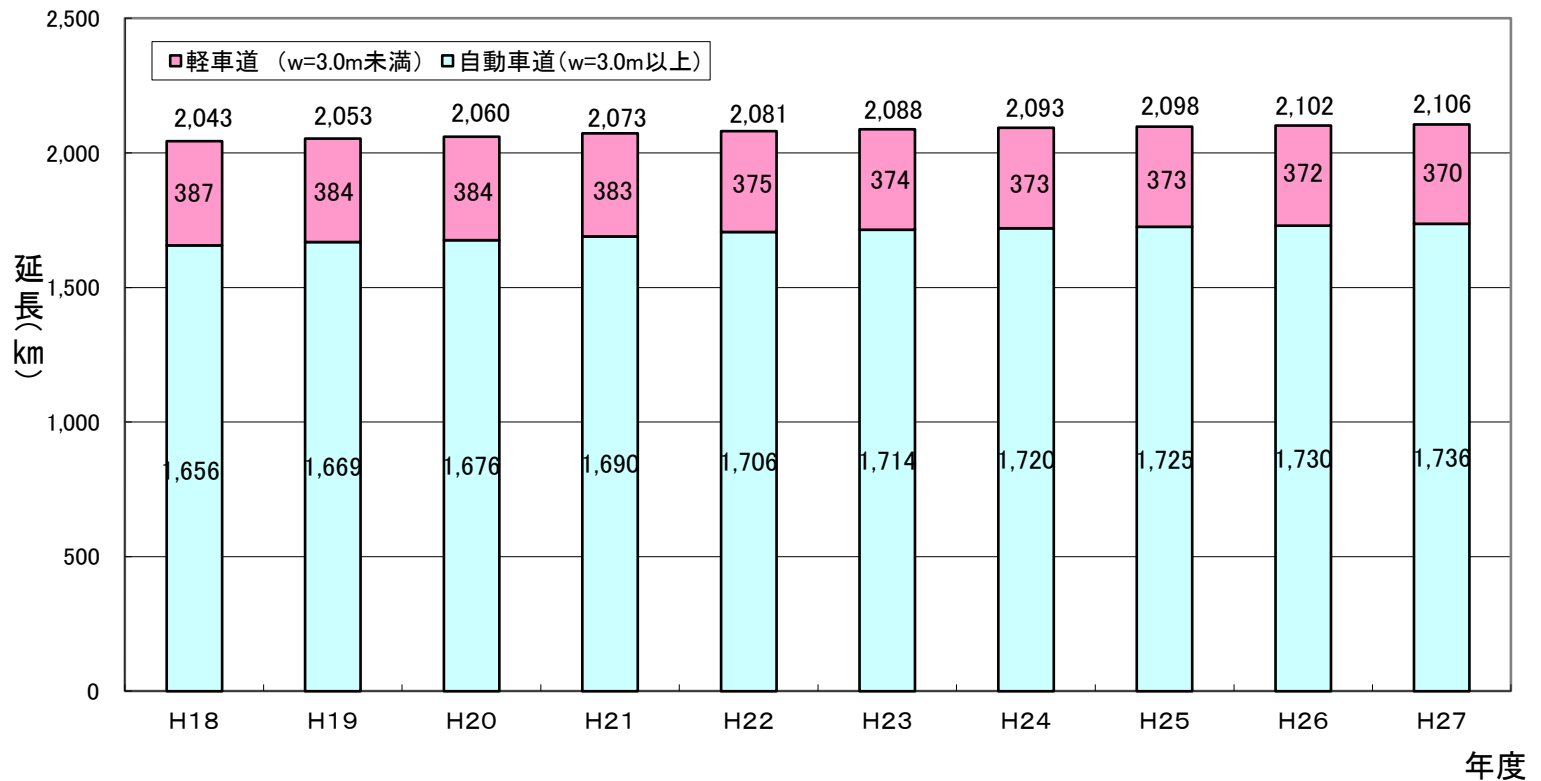


9 林道の状況

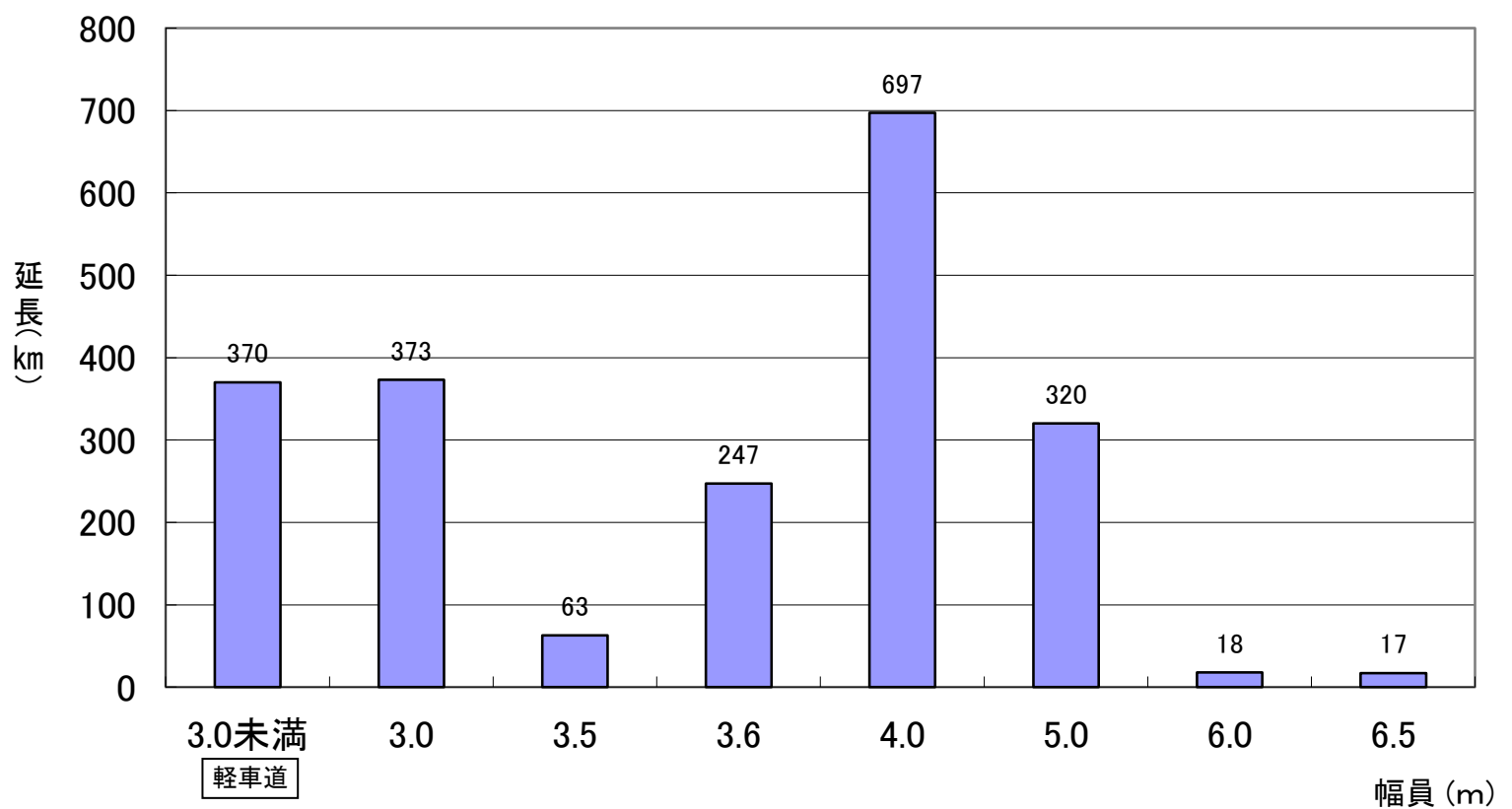
○平成27年度末現在の林道開設総延長は、2,106kmとなっている。

○幅員別の林道延長を見ると、4.0m幅員の延長が697kmで最も多く、全体の約33%となっている。次いで、3.0m幅員の延長が373km、3.0m未満幅員の延長が370kmとなっている。

林道延長の推移



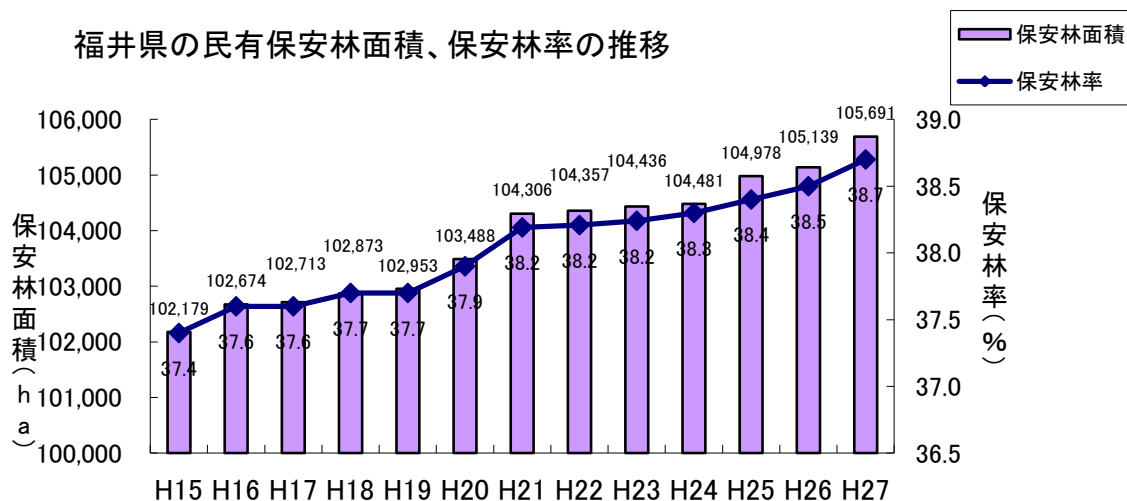
幅員別林道延長



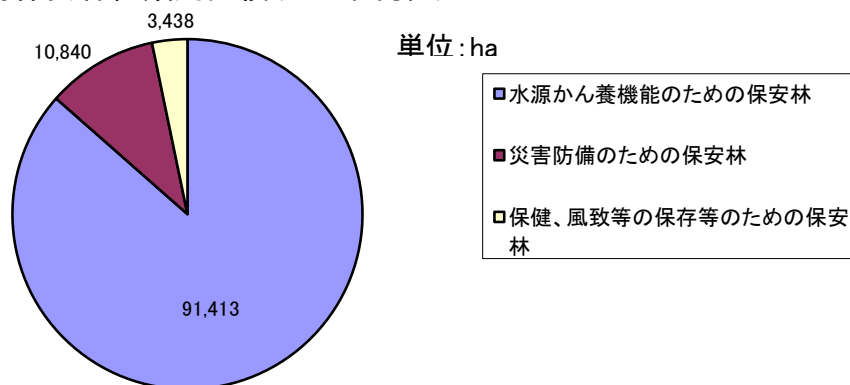
10 保安林

- 平成27年度末の民有保安林面積は105,691haとなっている。
- 保安林種別では水源かん養保安林が全体の86.5%、災害防備のための保安林が10.2%、保健、風致等の保存等のための保安林が3.3%となっている。
- 本県の民有保安林率は38.7%と全国の民有保安林率(平均29.9%)に比べ高い。

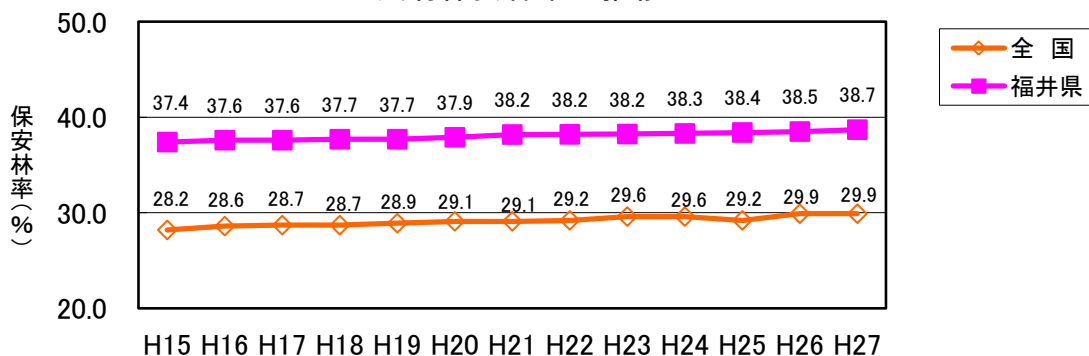
福井県の民有保安林面積、保安林率の推移



福井県の民有保安林種類別面積(H27末現在)



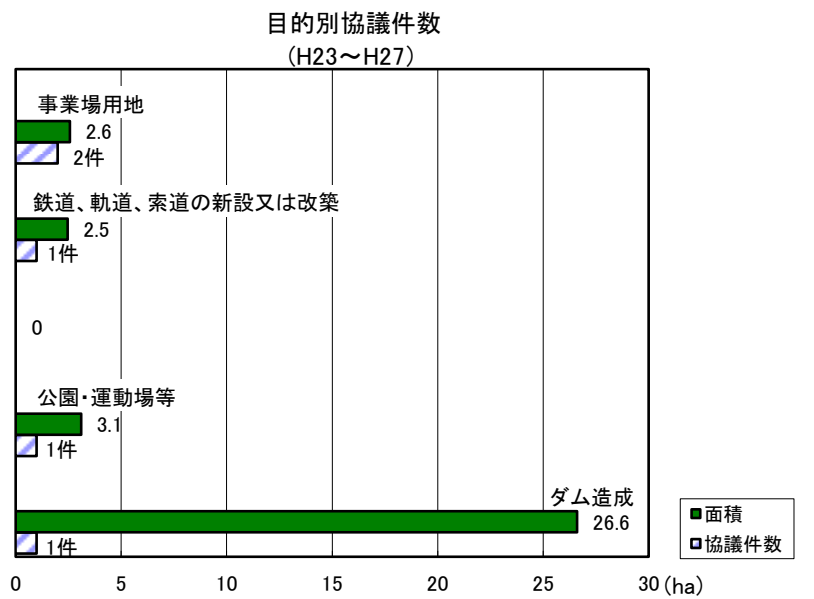
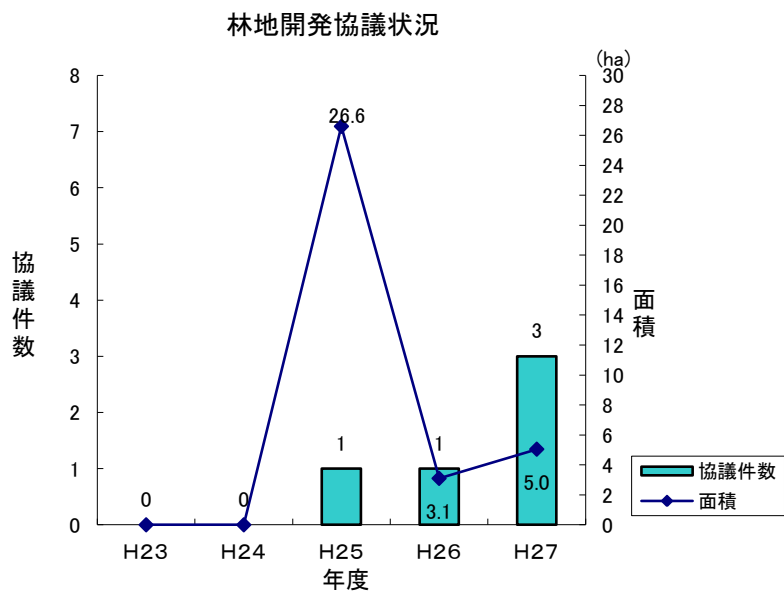
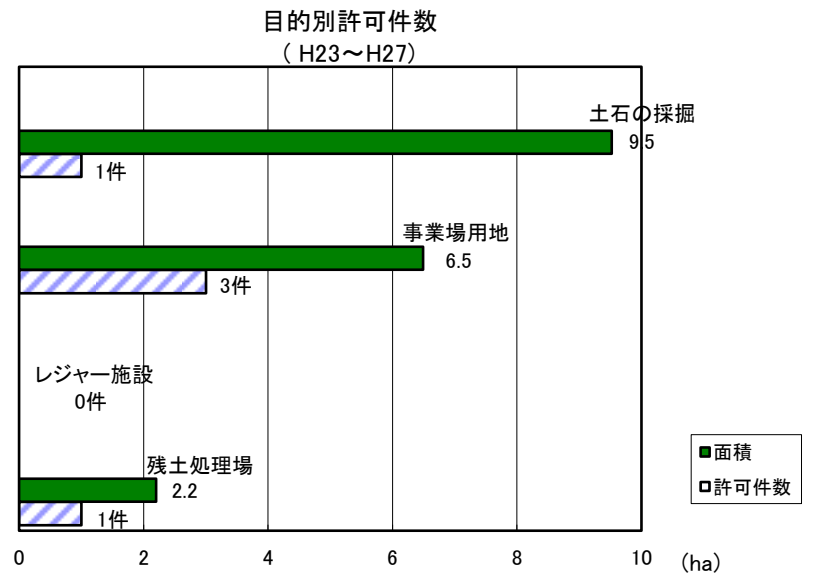
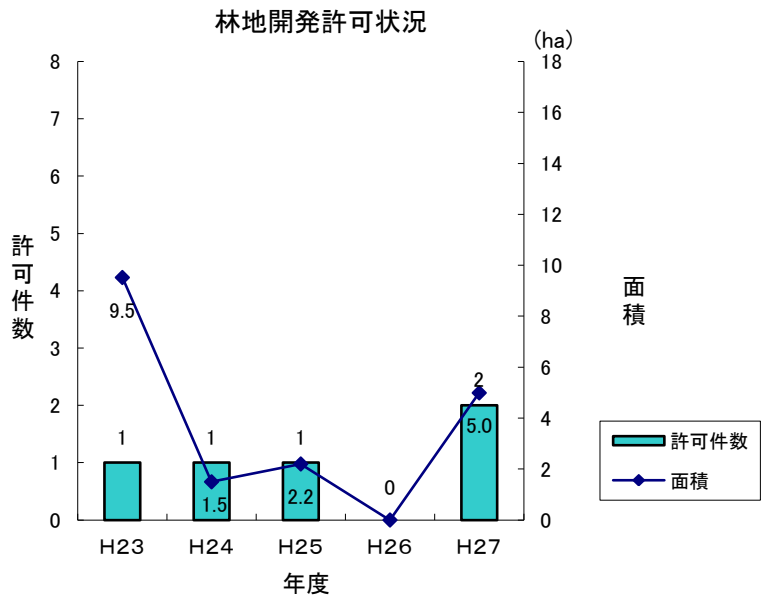
民有保安林率の推移



※全国の民有保安林率は平成26年度末

11 林地開発

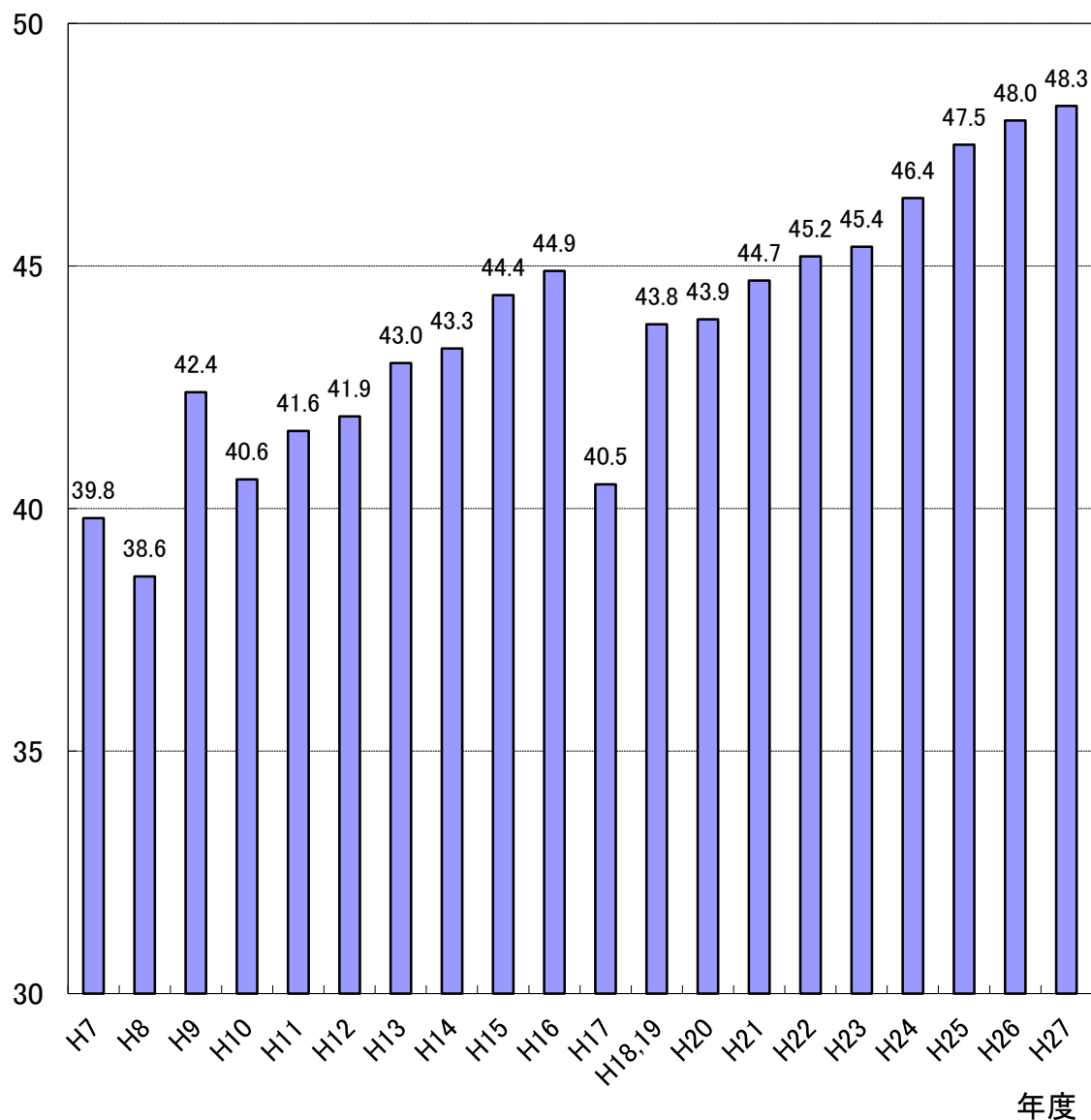
- 許可件数は年によって変動があるが、協議件数は近年増加傾向である。
- 目的別で見ると、近年、許可件数で最も多いのが「事業場用地」である。



12 治山の状況

○ 山地災害危険地区着手率については、事業の計画的な復旧により、平成27年度末現在48.3%(民有林)となっている。

着手率(%) 山地災害危険地区着手率の推移



注1: H17着手率の減は、H16福井豪雨後に山地災害危険地区を見直した結果、追加箇所があったことによる

注2: H18,19で国の基準改正による処理を行なっているため、H18の着手率はH19にまとめている。